

## ○ご協力をお願い

いま私は「社会資源の改善開発を実践し入所を選ばない地域生活をつくる」ことを実現したいと考えています。これからの人生ライフワークにするつもりです。そこで日本の施設施策に詳しい有識者グループ・障害を持つお子さん親グループ・当事者グループ・高齢者のグループその他にもたくさんありますが協力いただいて、脱施設の考え方とインクルーシブ教育の考え方をつなぎ合わせて、このメンバーで勉強会、講演会活動をしていきたいのです。

私は28歳のとき親元を離れ一人暮らしを始めました。当時はまだまだ人工呼吸器をつけて地域生活する例も、また夜間介助を必要とせず独居する人に人工呼吸器をレンタルする会社もなく大変困りました。

このような経験なども背景に、10年前に自立生活センターアークスペクトラムを立ち上げて一人暮らしをしたい障害者のサポートを始めました。

障害者の一人暮らしを実現するためには、社会資源（行政・医療・地活センター・介助派遣事業所・当事者のつながり・親族・施設ら）が、障害者本人を中心に勉強しあって励ましあって支えあって悩みを分かち合って、障害者本人の幸せを共有しあっていくことがとても大切でした。

私たちだけでなく、みなさんの取組みの成果もあって身体障害者の一人暮らし・地域生活の実態づくりは進みました。国連の権利条約や障害者基本法などの国内法の整備で虐待防止法も差別解消法もできました。これからは実態づくりをしてきたみなさんとで、このノウハウをいかに社会化できるかだけが愁眉だと感じています。

現在では身体障害者の一人暮らし・地域生活を実現するときの困難さは社会の側がいかにその用意があるかに移ってきました。例えば、地域生活を支える介助の仕事をこころざす人材が不足しています。まだまだ障害者を介助して支えるという労働分野への理解は進んでいない現状です。

社会の側の用意が足りない、社会資源の改善開発が進んでいないということは、今後10年20年30年単位で考えても非常に怖いことです。知的障害をお持ちの人、精神障害をお持ちの人の地域移行・一人暮らし・地域生活はストップしたままになります。ましてや身体障害者のそれも時代逆行しかねないことになります。

私はまず当事者団体として築いてきたノウハウをいかに社会化するかを真剣に考えることをしなければいけないと考えています。そしてもっともっと社会資源の改善開発を進めて施設を選ばなくてもいくらでも一人暮らし・地域生活の選択肢があるようにしていきたい。

ぜひとも「社会資源の改善開発を実践し入所を選ばない地域生活をつくる」ことを目的に、みなさんと勉強しあって伝えていって広げていきたいと思いますので、ぜひともご協力くださいますようお願いいたします。

社会資源の改善開発を実践し入所を選ばない地域生活をつくる（仮称：つくるプロジェクト）

○プロジェクトの目標

①入所を選ばず地域生活が送られ続ける社会資源を改善開発していきたい

②入所を選ばず地域生活をする本人を中心とした社会資源間での合理的配慮ある協議調整モデルをつくりたい

③子どもたちを分けたり隔てたりさせず誤ったり偏ったりする目を育てないためのインクルーシブ教育の実現と実践をしていきたい